

## 平成 29 年度 第 278 回教育研究審議会議事要録

**日時** 平成 29 年 11 月 7 日 (火) 13:30～15:15  
**場所** 北方キャンパス本館 E701 会議室  
**出席者** 松尾学長、柳井副学長、梶原副学長、二宮副学長、中尾副学長、田上事務局長、大平外国語学部長、朱経済学部長、田部井文学部長、小野法学部長、眞鍋地域創生学群長、龍国際環境工学部長、日高基盤教育センター長、八百社会システム研究科長、任マネジメント研究科長、今泉学生部長、田村教務部長、後藤入試広報センター長、佐藤情報総合センター長、廣渡評価室副室長

**配布資料**

- 1-1 教員採用申請書 (外国語学部)
- 1-2 文学部人間関係学科の欠員補充について
- 1-3 教員採用選考報告書 (国際環境工学部)
- 2 英米学科の改編にかかる中間報告
- 3 平成29年度学生表彰候補者申請 (推薦) 書の受付について

### 第 1 号 教員の人事について

\* 資料1-1のとおり、新英米学科開設準備室からの申請に基づき、経営戦略分野担当教員1名の採用申請について提案。

- \* 本提案は、第2号議案「英米学科の改編にかかる中間報告について」の承認後に審議。
- 組織人事委員会での審議結果、教育研究審議会での第2号議案承認を受け、新英米学科開設準備室教員の採用を申請するもの。
- 英米学科の経営戦略科目群を担当するということが、実務教員該当は無しでいいか。
- 教員として採用すると実務から離れてしまうので、最先端の知識は特任教員で対応しようと考えている。このため、今回の人事では、実務教員該当は無しとした。
- 平成30年度は開設準備ということで、担当科目を持たないと思うが、教員評価をどのように行うかということを考えておいていただきたい。
- 検討したい。

【議長】提案について、承認してよろしいか。

【委員全員】 (異議なし)  
(議案承認の後、選考委員会を設置)

\* 資料1-2のとおり、文学部からの申請に基づき、平成29年3月31日付けで退職した黒田耕司教授の後任として教育心理学分野担当教員1名の欠員補充申請について提案。

- 組織人事委員会では、教職専任教員を人間関係学科専任教員に振り替えることについて審議し、教職課程運営委員会において、全体的な教職課程運営体制の確保を考慮することを前提として承認されていること、また、教職課程運営体制の確保と人間関係学科のカリキュラム充実を図るものであることから承認した。
- 組織人事委員会の審議結果を踏まえ、教育心理学分野担当教員1名の欠員補充を申請するもの。
- 将来的に大学院で教育心理学を担当することはあるのか。
- 大学院のDPやCP、カリキュラムに教育心理学があてはまるのかということや、その教員に資格があるかということによる。さらに学部での担当や負担も考慮したうえでの判断となる。
- 教職実践演習について、教職専任教員が1名減で大丈夫か確認したい。また、新カリキュラムにあわせての採用のようであるが、平成30年10月1日採用としているのは、2学期に何か授業を担当していただく予定なのか。
- 教職実践演習は現在3名で担当している。新カリキュラムにおいても同様の予定であり、問題ないと

考えている。また、採用時期については、文科省の教職再課程認定との兼ね合いで判断した。年度途中からなので、2学期のいくつかの科目を担当していただく予定にしている。

- 他学部との調整事項について、特になしとしているが、教職に関わることなので、何かしらの記載が必要なのではないか。
- 専任教員ポストの振替については、教職課程運営委員会及び組織人事委員会で審議、承認済みであり、また、教職科目については、担当者の組換に留まるので、特になしとした。

【議長】提案について、承認してよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

（議案承認の後、選考委員会を設置）

\* 資料1-3のとおり、情報工学担当教員採用人事について、選考委員会から採用候補者（藤本悠介氏）の選考結果の報告がなされ、同報告に基づき採用候補者の採用について提案。

- 業績評価書に、「PBL教育の演習課題を提案している」との記載があるが、これは、業績としての記載なのか、面接においての提案であったのかをお尋ねしたい。
- 面接の中で、演習の手法を尋ねたことに対して、提案があったものである。
- 資格選考調書と教育研究業績書との対応で、教育研究業績書に「学会報告」という見出しを立てると整合性がとれると思われるがどうか。
- ご指摘のように修正したい。

【議長】一部資料修正のうえ提案について、承認してよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

## 第2号 英米学科の改編にかかる中間報告について

\* 資料2のとおり、英米学科の改編にかかる中間報告について提案。

- 組織人事委員会では、新英米学科開設準備室がとりまとめた（新）英米学科構想について、当初案のコース制からコアプログラムへの見直しにより、カリキュラムのスリム化が図られるとともに、学生の学びの幅の拡大、観光科目群の配置、実践力を身につけるための特別演習科目の配置など、魅力的な取組になっていることから、高く評価し承認した。あわせて、今後、カリキュラムや教員体制の最終的な取りまとめ、学生の指導体制の整備、全学的な「グローバル人材育成推進事業」の後継となる仕組みの構築、ビジネス系教員の採用申請を早急に行うことを指示した。また、この人事について、準備室で採用し、所属も準備室とすることは、第267回教育研究審議会（平成29年4月25日開催）で承認済みであることを確認した。
- 組織人事委員会での審議結果を踏まえ、英米学科の改編にかかる中間報告を提案するもの。
- 3学科共通科目群に代わる、基盤教育科目の「世界（地球）科目群」について、英米学科の学生が履修する場合、どう取ることになるのか。
- 選択必修にすることも可能だが、基盤の理念との関係、また、学務処理も煩雑になることなどから、現段階では履修ガイド等で推奨する方向で考えている。
- いずれにしても、世界（地球）科目群は英米学科だけではなく、全学の学生が受講できるよう配慮をお願いしたい。
- 定員変更を150から135と変更したことについて、これまでの外部への説明等で問題ないか。
- 外部に対しては、口頭で予定として説明しただけなので、問題はないと考えている。
- 各プログラムの科目配置の中で、英語で授業をする科目はどれか。
- 科目名が英語になっているものが英語で行うものである。日本語のものについても英語で行う可能性はある。
- 英語のレベルについていけない、留学できない等で苦しむ学生が出てくることが考えられるが、学生支援体制についてはどうか。
- 学生支援について、今後も協議を進めていく。当初計画では「全員が海外留学」としていた

ものを「より多くの学生が留学を体験」と変更したのは、学生配慮の姿勢を示した結果である。

- 初年次の教育をどうするか、どのようにプログラムの誘導をするか、マッチングさせるかということが大事であり、他大学の取組例も参考にしてほしい。
  - 他大学の事例を参考にしたい。
  - 定員を増やすというのは思い切った取組だと思うが、どのように考えているか。
  - 広報活動に注力して優秀な学生を確保する。これまでも強みであった英語教育の強化に加えて、今回グローバルビジネスを三本柱の一つに立てたことで、これまで以上のニーズが見込めるのではないかと考えている。また、留学させて終わりではなく、ネットワークを作り、留学や就職の経験を学生に還元できるシステム作りをするなど、このプログラムを通じて何が伸びるのか、キャリアアップの側面を打ち出していく。本学に来た留学生に対しても、北九州の魅力や地域とのつながりなど、本学への留学の魅力を日本人学生とペアを組ませるなどの工夫をして伝えていく。
- こうした取組により、これまでより多くの成果、そして需要が見込まれると考えている。
- 留学、インターンシップ、国際ボランティアの整備状況はどうか。
  - 少しずつ増やしていく。インターンシップについても、アメリカの企業と調整をしている。お金のかかることなので全員参加ということにはならないが、将来は直接アメリカの企業に入社する、といった可能性も探っていく。できるだけ早い時期にできるだけ多くの学生を派遣する体制を整えたい。
  - 入試について、英語力も意欲も高い学生を取るという方針を明確に打ち出して、共感した学生だけを取るようにはどうか。
  - 既存の枠の中で、取りたい層と実際に受験する層が一致するか、考えないといけない。将来的には、アドミッションポリシーを含めて検討したい。

【議長】提案について、承認してよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

## 報告

- ① 学生表彰候補者申請（推薦）書の受付について、資料3のとおり報告があった。
- ② 次回の審議会を平成29年11月21日（火）に開催する予定である旨、報告があった。